



道德洞卷

卷

9
41



門上
號 868
卷



道德問答

明德と云ふ何れ謂ふや是心是心は心は淨出云
るの取れは神儒佛二道教化異りと是
只此地に入らるるのいふんを言語文字
及ふ所を志の志の志に有る他を衆の
かき道なはるるを言ふ爰に祇師生國尾州
知多郡名和村の農人海
白川公之御門人となり同國爰に郡古井村
入幡宮と仕人となり小場佐高則と名乗
其先



南帝に奉仕呪嶋傳後二帝高利は末孫世々若禪
不位農人となり代々富士山白山立山禪定
す高利と文にあり同禪定は事二十三度
高利若年より道小入る如志有る衆人無
事若和村のを夫某と數く説く有り有師初
日天一行而ともども有りあはれゆく因と
照しし人畜本以羅方像法救い給ふる如
廣大無邊なる法を之に依りて問神職の
者より尋ねるといふととと意を得るの論は
爰にわが初而自得する如理と志り強む

農業代辭し行御代願ふととと兩親更
りしととと又竟たとととより御の終を級
竊り常位坐臥工夫無間断或は父母
轉時のいふ海と行海山入或は父の農業代
いふ如く同塵法學及び曾而書籍文字は
只爰爰にりて難く苦行年有るにして
大なり和光同塵たるを觀得る事牧有る
終り是悲中如く悲法超越し而是悲の如く
遊戯の又神佛の靈夢にりて常り加持
祈禱法修し萬人の疾病と取而以たり

今も此後三伏集其つにふいなる道法を
年有ゆ切な一惜哉大道の要と望と
成るも敷と聞所佳之記と師切
文字と學ありの少く故其論の事甚思に
似而意得しし素より味之其味其味
和ららく是師の意また事ありと
然りとくも初字是よのめとわんを權
意て端的道に入れ一助と返らん云爾
于時文化十年中春門人書之

○神佛へ祈願しし願主に依り利生有哉
神仏によりて利生有哉祈願と仰るは行者の
徳によりて利生有哉師の云利生の事
しるはる理屈と云ふはは果竟言ふ
はと文字と謂ふは神佛は無念の
無念なり故と云ふは利生の事
色と云ふの尊神なり利生といふは天
と地の中と云ふは無念の大いなり
とのあり利生なり言はるははあり
かゝるとは久しや利生厚し

なほあし祈るてとやいふがや

たしとあめのみはなり一撃

○おろし神佛の利生の有るは神佛に交
まらぬ有海一師の云誠の神佛に交
向の神仏と云ふは及むに只神傳とす者此
心とたぐぬ念し文字も神主書ゆ神心
いふもいふ都たふとある物ある人なり是
魔道ありふとなく物となく天然の心と
人なり此へ善人よ善心の者集り悪人
悪心の者集り小人よ信心の者集り博愛と

好むとの盗賊の類の者集り寄と其位
たぐくに應したる者集り其道と入り
なり爰と以融く善者すべし善と惡との
よみたるに存するとの諺にいふ神を祿其
か

千をやふゆつて成る神佛は魔道に

たをたをせりかれしかりなり

敢而向あつる物悪人小人信人の神社人
神仏も其のしは傳と云ふは罰と云ふは
ことにもあつて居給ふは師の云前も云通り

神佛の無人心のすまふに得といふ思ふも利生
いふもあもかゝ根本の中い言葉に難言れ
先々罰と利生も我より合点入し俗人
小人信人若くは僧山伏にてもあつる人
善人といふ善心の者等相互に累障消滅の
刻く目録因果ありて此也是非を思ふ事
の扱悪言邪氣もなるも此を病といふを
名同名利なも此は怨敵をくす敵といふ
なり只これのづゝ六根清浄を願ふ事

成就といふものなり小人悪人信人の其重なる
此の如く欲する所の友と得的におくは因縁
取えりも是非善悪名利名共にはあつる
大切の木の五體と扱し世一の敵なり
天地の御恩と謝と日天の光明と慈と
とてとやしくあつるは入生
世にこの此言とあぬも何れ神佛に
あつる給ふ或何ぞ得利をなすは
云神の正直の首に冠り給ふ

伊勢

天照自天神宮より伊弉諾尊伊弉册より乃
而女に命別今の日天ありと為る初夜
後日輪を化して天上に給ひたる事師の曰左
ありは是は天事の口説ありと信心の爲に語
右にても他にも先此世取の地神云有而
なりと此の何よ伊弉に御鎮座すし海も
天照自天神宮より可奉仰共そのぬをめでと
たし海忽ち方なる事にも事なきと日輪之地
用辟より日輪より別天照自天神宮より奉唱伊弉
天照自天神宮よりをりたるものも顯然と海也

海を勢州く

天照自天神宮也との論より別て古皮のぬい
ありは先萬物先よりいさな後存あり
路ありし事なきこと能合忘して
て地よとむるむる陽氣の性天に登り日光
菩薩とて天照自天神宮より奉唱是日輪より
是火の神の陽神より神儒佛の三道に依り
より唱へしは其唱へしに元はあり
女三男と産給ふ一女則

もそのむし尚余者辨也す二公は日天のむしを
天照白王大神宮空のむしを釋迦なりは神を
有の縁ありの顯てすはひしは縁有佛無の縁有
て形と雜すは縁有神表あり佛の裏に有無
のつとむとくそんやいりよとてそんやんたのつと
ふと一を佛菩薩と申はかりしはなすは同じ
見は神道といひしは世の家を以佛道といひしは
顯はは傷なきもむし世のつとむしは天地あり
のつとむしは縁有るより助々生くは菩薩といひ
菩薩と云次下いりしはつとむしは縁有るは

ととろれを其意味と辟言へりは縁有
金と石とつとむし合と火のつとむしは縁有るは
顯はは縁有るを權現と云ふは縁有るは是則因常
なり是毗盧遮那佛の光は此形ありは縁有るは今云形
の顯はは縁有るは縁有るは素より天地あり形
なりは縁有るは縁有るは正無道存の心是は縁有るは縁有るは
縁有るは縁有るは菩薩權現一縁無るは縁有るは縁有るは
權現顯はは縁有るは縁有るは天地の智慧のむしは日天の
天地の慈悲の徳は國土の顯はは菩薩の心は具空
實有るは縁善の光は縁有るは縁有るの光は善と縁有る

徳の光ハ位ニ成神の心ハ佛ニ形也佛の六神と
影本覺本有の如來ハ世所神と顯る是ハ權位の
徳より出形一是より上下善惡わたり二國ニ返
たんによし世にうり本来菩薩と唱る佛言より
發りたるやその日本唐土より唱神にあらん
この初國より唱神するといふのいふは
初となく終もなしと云ふ元來菩薩といふ
文字より出來たりとの專仏といふは
文字より執着して謀の菩薩といふ
今世といふと邊鄙のといふ飯と菩薩と云ふ

處し古言ありあつと市中に居ても
右にれと云ふは流の毒化の
地よまの古言あり邊鄙の土
為流毒の流行をのといふは
古凡古言ありのこり思行して
たものなり

○儒道唐土より發而今海目の
儒その根元と云は、師の云神儒
佛三道一致の論といふは是ハ
此云葉かかといふは誠の道入る

理なきをいふをなすもあはぬ儒をさすれと
徳の勝劣と論はるに及ばぬ始末終の神徳
佛徳在素より信乃の難及所之本末信を
れ根元と云ふ天地人の二一體なる事と感得し
是と形文字と言業に表し上

天子より下方民まで其教と立陰陽の初
かえり人の人たる道と明らふせんとの信あり
故小神佛の教道は理徳神討多し一信を
サ一凡異國を志す所日本にむすむ可なり
歴く此名者大將信乃と云ふ全始終は勝地得

乱世と治りありを因るは其先賢文哉孔子
祈禱と公孫揚利と云ふと云ふと云ふ儒治世の
道具と云ふを神佛と云ふ治乱となすて其
理徳神徳神討現然なりといふは其尊徳
なりと云ふをいふと云ふても日本に云ふ大系
大系と云ふは神仏の他力と自力と合併の徳と云
ふ事あり治るる神仏の他力と自力と合併の徳と云
國代治家と云ふの事云ふの事理に云ふは
自力と云ふは其の事云ふに云ふは其の事
ありと云ふは其の事云ふに云ふは其の事

東照宮或天月后族地雨霰の降り今如の

戰場ハ陣とて七つありといふ事すべしと云ふ
強以て急なり是神仏の他力と自力と合符の歟
理亦徳く甲斐の信玄やと揚とて英傑智謀の
大に戰場ハ陣とて神仏の他力と
と云得なり専理ハ法とて自力と断りて之の
大に在下の筒先とてむねくなくなりを
別れ討て是儒の及ぶ所前にあはざるなり
分明なり其儒道の教りてハ全神聖者
理とてハありありと國を日本とて
是とては元是小宗と云ふ事すべし

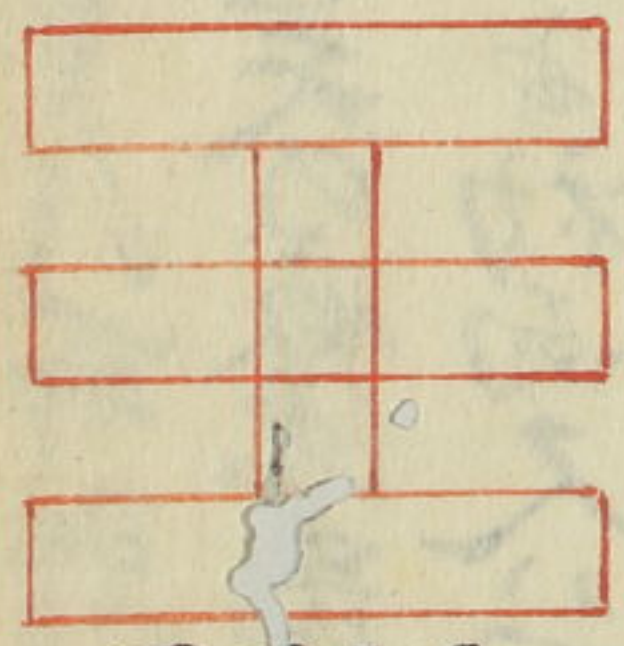
大賢人といふは孟子の言也天子の討て
と云ふは君と殺さるる理に
大罪の教諭ありて大忌無き討て天子
とて馬鹿と云ふ事ありて殷の天子に
相遠かり武王其下の諸侯之臣なり聖人の心
麻衣とて水晶の衣なり何れ聖人たる武王
惡乎とてその故とて一夫の討てたる小理と
踏へて是とて天子となりなむとて我
不仁儒者の言なりとて指す大切なり西親
事すべしと云ふ大罪人と云ふ事すべし

自身の愚智を凡意臆はる人武王の紂王とて
 天子と有り釋尊の兩親とてて道はつた
 及ぶ理に於て色有衆中れ地定は合ぬ
 爰と以て動考をなす根儒道の發りたる
 右は理とて理とてありてありて國の
 理とてして理とて伏義堯舜にして孔子
 せしむたとて聖人もども天と二つの天れ
 地と二つの地れわまに二つの地れとて
 初而發ら發らとて元とていす天地人一體
 車は不發明故に父子君臣といふなあり夫婦

忠孝仁義礼智信といふは只ん存ありて
 渾くして一とての少しあり法則なるは
 用はなすありすなり譬して火も水も鍋も
 とて是と三つのま同體一體にして
 事とありてありて根の所にありて
 忽然とて終に天地人一體なるものと
 觀得はとて直き其ますに
 一體なる

天
 人
 地

一體



是色空一體
 無差別也
 天地同氣
 一體表

知斯の事より初る理なきは人なきは所則陰陽
合體入我が入其より父母我也天の威徳嚴尊の
父之地の威徳尊の母之愛ふれ初而入の万物の
靈天地の寶少の則天地人としの久天地養
事と大心悟入し **三** 是と文字とし阿吽の次少の
よ以玉と讀 **三** 是より理海叢理と表し文字業
子なるもの父母はは久らよ以孝と名身上下君臣と名忠
こ名身夫婦と唱へ是と仁是と義是と礼とと智を
所信と名身元一神とて教と云と立 **三** ぬ
如えり人の人たる人なり如く **三** 儒道の根

元也敢而問ふ **三** 右 **三** ころん父子君臣忠孝仁義
禮智信 **三** 出来 **三** 曰其通之志のれ **三** なが **三** おが
出来 **三** ころん **三** 父 **三** 子 **三** 君 **三** 臣 **三** 忠 **三** 孝 **三** 仁 **三** 義 **三** 禮 **三** 智 **三** 信 **三**
その **三** 氣 **三** あり **三** あ **三** 是 **三** とも **三** 是 **三** と **三** 見 **三** 出 **三** 夫 **三** 人 **三** 名 **三** 身 **三**
教と立る人 **三** 中 **三** 口 **三** 渾 **三** 一 **三** とも **三** の **三** 心 **三** 心 **三** あり **三** 也 **三** 是
言 **三** 候 **三** に **三** とも **三** 行 **三** とも **三** 夫 **三** 何 **三** なり **三** 孫 **三** 孫 **三**
ご **三** ころ **三** とも **三** の **三** に **三** とも **三** 見 **三** 出 **三** 夫 **三** の **三** とも **三** め **三** ん **三** とも **三** 心 **三**
な **三** とも **三** の **三** とも **三** 海 **三** へ **三** 孫 **三** へ **三** 曰 **三** 右 **三** 段 **三** 先生 **三** の **三** とも **三** 所 **三** ち
儒道 **三** 中 **三** とも **三** 無 **三** 極 **三** 中 **三** とも **三** 大 **三** 極 **三** 中 **三** とも **三** 所 **三** ち **三** 相 **三** 見 **三** とも
師 **三** の **三** 云 **三** 儒 **三** 書 **三** に **三** 無 **三** 極 **三** 中 **三** とも **三** 大 **三** 極 **三** 中 **三** とも **三** 所 **三** ち **三** 相 **三** 見 **三** とも

太極の姿をわねの圖をわめと歴々の儒者をまじへ
しとるたふらとて是を全く理なり先とて
まて論やと眞銀勝負のさふ海ふのさふ
心の徳の徳の理の徳のに自たてまふ
意をし虚多故よ二道甚混雜しとるに
かると無極やとて太極なるともあつたや佛と
くま混るるはと偽その根元の前やとせり
凡一切點まじり姿形意識と以仁義礼法則と五
人の人くると人かるととてそののさふ此亦も
事かみ然ると今日にうくは理が引められ

無極の圖をわねの太極の姿をわめと理をわねの
辨てのう者うがふ不自在なるとのさふ
上根の志有るも學子ぶとのさふ心の増長
儒の本辨はとり失いむとてに文字せん
かとてなはる入利今は偽とては仏とてとてい
佛言をわねの徳りもと者も右段とて所れ
神儒佛三道の根元と徳と耳に留板葉の
とてとてに建しとる歴とてはとて
某と書物やとてとて文字もとては
かよとてその根元と語るととてのさふ

三道の尊徳たのむ初より具足して有る
事残るるを今日といふは
た西の片時とたててもよく
有る大事に守りほと先く
よしなし意増しよの語り
○易道れ根元ハハハ年所は
數年とく人易と學ぶ
のり聖人そとれさゆ
たおて容易なるとり
右聖人たあるる
易道れ根元ハハハ年所は
數年とく人易と學ぶ
のり聖人そとれさゆ
たおて容易なるとり
右聖人たあるる

易道の根元ハハハ年所は凡心のり
のり及よまはる今流物
海師の云易道の根元ハハハ
無而有云は所を易は偽さ
このなれと本来儒さ
偽さ身は道入るり
之れ易さ名世ふり
天子より下万民
義の法則と守り
道々として此易に
易道の根元ハハハ年所は凡心のり
のり及よまはる今流物
海師の云易道の根元ハハハ
無而有云は所を易は偽さ
このなれと本来儒さ
偽さ身は道入るり
之れ易さ名世ふり
天子より下万民
義の法則と守り
道々として此易に

ざる得り有り也。然るに其の事、日本に在りては、
同格の聖人如是の事、然るに其の事、
久しきより、孔子の徳、
中々、これ、
厚し、
他カ、
つ、
す、
是、
也、

と、
神、
孔、
大、
自、
殺、
天、
爰、
あ、
神、

いふ語に方につつ孔子ののれを所ある門人
孔子ののれ中とあるにそを是れと云ふは孔子の
方と云ふはすめが流し書にまきし強急とい
是れの意自カの國と云ふのめがかりをあるは
孔子の上とあるは天聖人日本の地を日本と
敬と云ふ事かしはれはつるは西のひはは後
のりはつるは轉入と云ふは治し忠孝仁義
礼智信つと先行せざるはとてと勉行を道
志として神佛の他カは禱願しては禱願あり
たのみ金一今文唐天竺は志は日本は古代も今も

右申ゆるは人の人たるはつるはつるは

○醫の根元と云ふは專諸病と治せらに有其諸病と
治せらその根元と云ふはつるは師の天將軍は天
天地と治つるは醫のつて地と治つるは天將軍
の一心にありの能くつとて天理ありつるは將
士率風に草のれつと云ふは能く城内治り世を安
泰と云ふは天邊の疾治と云ふは野心のつるの
出来は傳内より火の出るはつるは愛出て来り
立所は為謀は金一醫のつるはつるはつるは
繁れ世をすし天意根本と云ふはつるは先五臟

六腑とれたの心鏡にてししてさるるがし誰とてし
けりつる也天子五性の神あり人五臓の神あり
五性五色の理と以春夏秋冬にありて治法
化はるるものありしして氣を万病の元とす
天子より下万民に至ると其法と下とわきまを愛
万化をばらり病と見定て中しとせしむる
良薬却而毒系とあり病と治さるるの法を
毒毒とわいゆるものありしを右と所位のり
形知はるるがし性さるる上と名醫のり
出極くの醫書をば山に有るし末世とて具ん

實よはるるしとてしやるしありに及ぶる
常その根本は五性五臓とてしとてしに
一氣ありて形さるるものありしとてし
るは常その根本とてしとてしとてし
病人とてしとてしとてしとてしとてし
とてしとてしとてしとてしとてしとてし
可きありしとてしとてしとてしとてし
費らるるしとてしとてしとてしとてし
のり別してとてしとてしとてしとてし
とてしとてしとてしとてしとてしとてし

とくはぬるべしとて是れをさるるに概えよるは
ほくはぬるべしとては、知てたのがは、は、は、は、は、は、は、
自由自在の變化に際して出東ぬるものあり
病氣は死靈と其の障有る旨、法古全書也を
有るを師も、その有り、若死其の靈の障の
り、を、く、け、り、なる師の云死其生其を
何り、た、れ、せ、無縁にて、と、来、く、は、何、か、ら、の
縁、よ、り、く、来、る、もの、又、怨、靈、と、い、ふ、者、是、
ま、り、と、向、く、相、手、者、と、し、心、意、の、不、り、か、ぬ、ん、と
して、死、ま、る、者、必、終、ぶ、と、一、命、と、奪、ま、る、もの、あり

其上奪いし者、と、い、は、れ、し、もの、を、惡、死、邪
神、と、なり、永、く、其、家、の、害、を、な、す、もの、なり、ま、
戰國或は凶年の後、必、災、為、流、り、ま、る、もの、なり、
是、戰、死、亂、死、の、具、風、吹、教、死、務、を、所、と、奪、り、
在、と、し、ら、や、ん、疫、神、邪、神、と、な、り、ゆ、と、の、あり
今、時、流、行、の、風、邪、に、て、も、ゆ、を、り、奪、死、の、具、と、
と、下、を、底、に、に、仇、敵、と、な、し、く、ら、う、と、は、
口、を、進、行、し、もの、又、死、其、と、ま、せ、其、と、い、ふ、は、
ま、り、死、其、と、ま、は、凡、人、の、死、に、の、ど、と、必、念、の、ま、
を、な、體、中、に、十、善、徳、と、は、り、し、もの、の、あり、

一念外し右残り一息が別死具ありを恨みの
念を女のいかりの念を女の念は濁れ只善悪を
のこる一息が死具となす九息を少しの靈を
多く有るもの之を是を母嫁は法を承けて
縁は成て障りとせぬのここれに死ふは
まじの豪傑の勇士なりと善悪の差別が
一念よりむといらる者死して生かして
死してなむとせしる終り一息を
かゝる女の者の中が女をさかす女は
持し居るもの之を障りとせぬ

事いなり勿論乱世にまかり治世にまかり
ものを数万人の一人有りしと云ふ此の死
具は種々量あり生具と云ふ右はた遠くを
いふゆとせし其者大に難治とせし死又を
あそと云ふなりなるものたひは遠くを
あそとせし其者大に難治とせし死又を
又常し申たがひとせしはむとせし
病苦と云ふ非混るる念を用心者といふ
ととて来るともこの念を来るとし不持
いととせし其者大に難治とせし死又を

くけりけり懐心者くもは是を門にぬきまゝに
けり是は向の者自づから来害と云ふは
より拓きしむるはくも雨水の極たまり
低まゝに入るるは雨水に心向しむるは
向ふる時其死具生具の降るは心ぬ
師の云徳有人下臧悔と云ふは是の事と云ひ
ことには入るるは又我體中の十方億土に
行者の行徳のみあるすくは速くは愛し
障の除るるは又向ふるは右より左に
醫の療治の事には全快せざるは師の云

死靈生靈と云ふは命と奪ふものと云ふは
或は諸病の障と云ふは今流布を果る病
於此に其家に何ぞも分るるはえぬ
その家の家のものも其集るるは所
と云ふは命と奪ふるは命と
奪ふるは命と奪ふるは命と
も有るは命と奪ふるは命と
ねむつらやしたるは命と奪ふるは命と
及むるは命と奪ふるは命と
水滅せしむるは命と奪ふるは命と

○命數に長短の定有り、又師の云今所天より
給つる命數に七種の定有り、といえども今
當代のそと、十年と云定業、一、余はそと人々の
徳も徳も有る、六十年も有る、死と非業の死と云
ふ、死と云ふ、死と云ふ、七八十年の死、好有る
あり、申す、進法、憂難、難、何、却、而、命數、が
有、而、短、命、に、相、違、ふ、衆、生、も、人、も、有、り、十、万
の、うち、各、お、の、高、徳、有、る、人、も、定、業、と、侍
ま、し、て、死、す、る、も、の、も、有、る、是、は、善、惡、と、も、そ
の、願、の、す、く、事、も、の、一、押、神、佛、衆、生、の、為

難行苦行者であらば、何れも、その、心、も、お、も、た、ら
何、れ、も、な、ん、ん、と、に、其、願、息、と、つ、ゆ、ら、の、心、を
志、す、只、只、の、心、を、も、と、その、身、の、定、と、由、悉
く、その、心、も、お、も、た、ら、名利、名、聞、に、入、り、位、階
權、門、の、心、を、お、も、た、ら、り、邪、淫、心、の、心、を、お、も、た
ら、り、お、も、た、ら、り、位、階、の、心、を、お、も、た、ら、り、諸、人、の、進
退、の、心、を、お、も、た、ら、り、其、身、の、分、隔、諸、人、の、益、を、お、も、た、ら、り、ん
全、體、万、宝、と、は、い、は、し、お、も、た、ら、り、一、片、の、心、を、お、も、た、ら、り、政
務、是、と、悦、び、増、進、の、心、を、お、も、た、ら、り、恨、の、心、を、お、も、た、ら、り、
その、心、を、お、も、た、ら、り、と、お、も、た、ら、り、是、は、お、も、た、ら、り、定、業、の、心、を、お、も、た、ら、り、

非業と願子孫長久とさらぬ子孫の衰微と願ふ
とのした人もいへり牛の鼻の鼻つゝと
とをよと云は是なり初よりい進の高位
の所の追従輕薄とありし諸人小恨と文
句の衰微とありしゆくなどともいふ
はととねとつゝとのこゝれたはゆひの心
のつあしはゆきまらばゆふ上はゆひの
鬼よいづれも子孫ともするんめ地獄
墮落するものこねとてをわらう命
故やれ心をまづかゝるぐしく正し後人

を敬せらぬ定業はけつば長命子孫
を久あるとのこかゝるといふ句は貴と多
るはとあらぬ誠の道と得るものなんぞ
貴賤の小理も著せん哉

追加

師の道哥數十首は詠高則土部はま
初よりその執行に其身は抑ち文字を
言葉とははれぬふそひもはるむが素
そのておなるとありはるは都ははれ
まおととて詠しはひしうとあり

其ついでに、又之を繋ぎあづかるべしとの意は觀す
世に道に入るの階梯はもたんとせよといふ
不偏のせし終るとするは

終るといふは、心すなるといふは、直なり

神のよきなり

死むごとく佛や死すはつゝぬき

そこと悟るがまゝにありてあり

神乃ちふむもつゝなり

識りのつゝなり

國王は地元の法をたむ

終つては、直に、つゝなり
強よの心たつひつゝなり
あつゝなり、天その法を
天の行地はつゝなり、身はつゝなり
仁義はつゝなり、みづはつゝなり、代
世の申に、つゝなり、人つゝなり
つゝなり、つゝなり、つゝなり
つゝなり、つゝなり、つゝなり
神を、つゝなり、つゝなり

あまのこしをきりぬる
世の中は空しくなる中
くはれしこころをわらわ
所へと道なきにまじり
せぬ人ねえにせぬの
吾人のそとにあらざ
く世のあつたあつた
悪人よなきあつた
く世のあつたあつた
あつたあつたあつた

あまのこしをきりぬる
人よ世をきりぬる
海のそとにあらざ
世の中は空しくなる中
くはれしこころをわらわ
夫の神を敬むる
徳とあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

よきし海も水もいしとやまぬよ
神をたぐふは自然の道なり
そとむるぬがごとくは神道
天を又地を母とすは自然なり
みればの思をゆきまらぬ
人をも天地の法をまむは
そむきまらぬは自然なり
その中にあそぶは自然なり
天のなまききに身とぞあはれ
此の世は自然の道なり

あはれりとのやうに
天と下と自然なり
この世は自然の道なり
神をたぐふは自然の道なり
天を又地を母とすは自然なり
みればの思をゆきまらぬ
人をも天地の法をまむは
そむきまらぬは自然なり
その中にあそぶは自然なり
天のなまききに身とぞあはれ
此の世は自然の道なり

あはれに...
世の中は...
神代...
天の...
地...
天の...
地...
天の...
地...
天の...
地...

あはれに...
世の中は...
神代...
天の...
地...
天の...
地...
天の...
地...
天の...
地...

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, oriented vertically on the right page of the document.

